

(図中の口上)

東京御区中各様方万寿 く

御機嫌よく被為入恐悦至極に

存じ奉り升随而私儀去る御臈

肩の御手引により御当地へ罷り

登り当市村座え出勤仕り久々に而

各々様方の御尊顔そんがんを拝し候段

誠まことにもつて心魂しんこんにてつし有

難き仕合にぞんじ奉り升

既に父璃寛は去る嘉永

年中御当所三丁目河原崎

座へ罷下り長々御当地に於

て御ひゐきに預り其砌みぎりり

私義は和三郎と申升て

未だ十一二才いままの幼年にて

先年故人こになら

れ候坂東彦三郎

又は当時の団十郎菊五郎

当座の高助杯などとは朋友ほういうにて

別わけまじはて交まじり深く最早かぞへて見れば

三十年のむかしにて其をり

当団い十郎未いまだかはら崎

権十郎と申せしころ

岩崎権六の浄るりに

権十郎万歳にて私才

蔵の役を勤め

殊の外御評判に

預り候所程なく

帰坂仕りし後父璃寛義は

帰らぬ旅に趣き候故若年と

申し此先きいかゞ仕るべくと実に

途方とほうにくれ候所御晶層様方の

御引立をもつて未熟みじゆくながらも

父の名跡相みやうしほせきやうしやく続致し芸道げいどうしゆぎちゆう修行仕候

内も幼年の頃御愛顧あいこを蒙かぶむり候

御当地の事わす忘るゝ間なく尚又

御維新以来年々繁昌し劇

場も数多に相成開明の

有難き御治世何卒

今一ト度東京の各様方へ

御目見得致し度と朝夕存じ

折候所今般当座へ

出勤致すやうとのお招

きに取あへず罷登り候へ

ども素より不調法なる私悪敷所は御差

図被下父同様御ひいきに預り美寛に至る

まで御引立を蒙り芝居開業初日

より永当く御見物に

御来車之程隔から

すみ迄ずいと希上奉り升